

第 8 回

調布市立中学校部活動地域連携・地域展開に係る検討委員会

令和 8 年 8 月 31 日（月）午後 6 時 30 分から

【事務局】 教育委員会（指導室），調布市生活文化スポーツ部（スポーツ振興課・文化生涯学習課）

目次

01 前回検討委員会の振り返りと検討の前提

- 前回検討委員会で示した主な方向性
- 国・東京都の方針を踏まえた調布市の検討の方向性
- R7トライアルから見えた成果とR8以降の課題
- R8年度検討委員会の位置付け
- 第8回検討委員会で意見をいただきたいこと

02 R8年度に進める取組と制度設計論点

- 人材確保・指導者認定・謝金・費用負担の論点
- 人材バンクの取組状況
- 人材バンクと認定制度の整理
- 指導者配置と謝金水準の考え方
- 地域クラブ運営費と費用負担の考え方
- R8トライアル事業の全体像
- R8トライアル事業の実施概要と検証項目
- R8トライアルで検証する範囲

03 R8～R10を中心とした事業推進の全体像

- R8～R10を中心とした事業推進の全体像
- 調布モデルの役割分担の再整理

04 推進計画改定に向けた主要論点

- 推進計画とガイドラインの切り分け
- 地域展開の達成時期の考え方
- 地域展開の実施モデル案
- R9～R13の段階的な地域展開案

01 前回検討委員会の振り返りと検討の前提

前回検討委員会で示した主な方向性

第7回検討委員会で確認した調布モデルのスキームと、R8～R9に向けた重要論点の再確認

- 第7回検討委員会では、運動系部活動及び文化系部活動における調布モデルの全体スキーム、令和9年度以降を見据えたロードマップ、R8～R9に向けて整理すべき重要論点を提示した。
- 運動系部活動については、公益社団法人調布市スポーツ協会を統括団体・運営事務局として想定し、既存部活動を母体とした地域クラブ化、地域資源の活用、学校施設の活用、教員の任意関与、受益者負担、公費負担等を主な検討課題として整理した。
- 文化系部活動については、統括団体は未定としつつ、文化生涯学習課、調布市文化・コミュニティ振興財団、大学、文化団体等との連携を想定し、吹奏楽、合唱、美術等の活動をどのように地域で支えるかを検討課題として整理した。

第7回検討委員会で示した事項	今回資料で整理する事項
調布モデルの全体スキーム	関係部署・主体の役割分担の再整理
運動系・文化系それぞれの方向性	複数の実施モデルとして再整理
R9以降のロードマップ	R8～R10を中心とした事業推進全体像へ展開
R8～R9に向けた重要論点 (a学校業務の整理、b保護者・地域・学校への広報、c統括団体の運営機能の設計等、d人材バンク、e文化系部活動の検討、f収支モデル)	ワーキングでの検討結果を踏まえ、推進計画・ガイドライン・実務設計へ接続

前回示した調布モデルの方向性を踏まえ、
今回は、令和9年度以降の地域展開開始に向けた制度設計・実装準備の全体像を整理する。

国・東京都の方針を踏まえた調布市の検討の方向性

改革実行期間、学校との連携、認定制度を踏まえた検討

- 第7回検討委員会では、国・東京都の方針を踏まえ、調布市の今後の検討においては、以下の3点が重要な視点となることを整理した。
 - 第一に、国が示す改革実行期間（R8～R13）を見据え、**休日部活動の地域展開をどのような時期・手順で進めるかを整理すること。**
 - 第二に、学校と地域クラブ活動を切り離すのではなく、施設利用、生徒情報、平日・休日の活動内容等について、**学校との連携方法を整理すること。**
 - 第三に、地域クラブ活動の**質を担保するため、認定制度や指導者認定の考え方を整理することである。**
- 今回資料では、この3つの視点を踏まえ、**後期推進計画、基本方針・ガイドライン、R8トライアル、R9以降の実装準備を接続して整理する。**

視点	調布市で整理すべき事項
改革実行期間を踏まえた段階的な進め方	R9以降の開始時期、年度目標、達成時期
学校と地域クラブ活動の連携	平日・休日の接続、施設利用、情報共有、責任分担
地域クラブ活動の質の担保	認定地域クラブ、指導者認定、研修、安全管理
地域で支える体制整備	スポーツ協会、人材バンク、文化系統括、地域資源活用

国・東京都の方針を踏まえつつ、本市の実情に即した形で、学校と地域が連携した地域展開の仕組みを段階的に構築する。

調布モデルの成立条件と、制度化が必要な主要課題

- R7トライアル事業では、統括団体を置いた運営、既存部活動を母体とした地域クラブ化、地域人材・加盟団体・トップスポーツチーム・大学等の地域資源の活用、教員の兼職兼業等について、一定の成立可能性を確認した。
- 一方で、学校部活動と地域クラブ活動の接続、活動場所となる学校施設の使用、指導者の質と量の確保、受益者負担を含む収支モデル、地域への認知度向上、統括団体の運営機能、文化系部活動の運営スキーム等については、R8以降に制度化・具体化が必要な課題として残された。

主な成果	R8以降に検討が必要な課題
統括団体を置くことで、行政・学校との窓口機能が明確化	統括団体の運営体制、業務量、財源の整理
既存部活動を母体とした地域クラブ化の可能性を確認	学校と地域クラブ活動の役割分担、平日・休日の接続
地域人材、加盟団体、トップチーム、大学等の活用可能性を確認	指導者の質・量、登録・認定・研修・配置の仕組み
マルチスポーツ等、新規ニーズに対応する活動モデルの可能性を確認	実施モデル、対象、参加方法、費用負担の整理
教員の兼職兼業による関与モデルを確認	教員の関わり方、報酬、負担軽減、制度上の整理

R8年度は、R7トライアルで確認した成果を踏まえ、地域展開の実装に必要な制度・運営ルールを整理する段階とする。

推進計画の改定とR9以降の実装準備を支える議論の場

- R8年度の検討委員会は、**推進計画の改定に向けた検討**を行うとともに、**R9年度以降の地域展開開始に向けた主要論点**について、関係者から意見を得る場として位置付ける。
- 第8回検討委員会では、第7回検討委員会で示した方向性を踏まえ、国・東京都の動向、人材バンク、R8トライアル事業、推進計画改定の論点等について説明し、今後の制度設計に向けた意見を得る。
- また、謝金、費用負担、認定制度、学校接続等の論点については、必要に応じて検討委員会の追加開催又は検討委員会委員との中間共有を行い、**11月頃の推進計画改定素案に反映**する。

R8年度検討委員会の想定

	第8回	第9回	第10回	第11回
時期	8月31日（月）	10月中旬	11月上旬	1月下旬
位置付け	論点提示	中間整理	素案確認	最終案確認
主な議題	1. 前回検討委員会の振り返り 2. 国・東京都の動向 3. 人材バンク 4. R8トライアル事業 5. 認定制度 6. 謝金・費用負担 7. 推進計画改定の論点	1. 人材バンク 2. 認定制度 3. 謝金・費用負担 4. 学校接続 5. R8トライアル事業進捗 6. 推進計画改定素案	1. 推進計画改定素案 2. パブリックコメント前確認	1. パブコメ反映 2. 最終案 3. R9以降の進め方

主な議題	内容
1 前回検討委員会の振り返り	調布モデル、R8～R9に向けた重要論点
2 国・東京都の動向	改革実行期間、地域展開の方向性
3 人材バンク	指導者確保・登録・研修・配置の考え方
4 R8トライアル事業	実証内容、検証事項、後期計画への反映
5 認定制度	認定指導者、認定地域クラブの考え方
6 謝金・費用負担	謝金水準、受益者負担、公費負担、減免の考え方
7 推進計画改定の論点	実施モデル案、段階展開案

第8回（今回）検討委員会では、推進計画改定の検討に向けた主要論点を提示する。

第8回検討委員会で意見をいただきたいこと

推進計画の改定やR9年度以降の制度設計に向けた主要論点について意見を得る

- 第8回検討委員会では、後期推進計画の完成案を示すのではなく、令和9年度以降の地域展開開始に向けた方向性、R8年度の取組、実施モデル、年度目標、人材確保、費用負担、学校接続等の主要論点について、委員から意見をいただくことを目的とする。
- 委員からの意見は、今後のワーキング、庁内調整、子どもの意見収集、パブリックコメント、R8トライアルの検証結果等と合わせて整理し、推進計画改定素案及びR9年度以降のガイドライン・制度設計に反映する。

おもな論点

論点		委員に確認したい事項
①	目指す方向性	調布市が目指す地域展開の将来像に違和感がないか
②	R8年度の取組	人材バンクの取組状況、R8トライアルの実施概要、実証範囲をどのように受け止めるか
③	人材確保・認定制度	人材バンク、指導者認定、団体認定、研修、配置の考え方
④	謝金・費用負担	謝金水準、受益者負担、公費負担、減免、部費的徴収との整理についてどのように考えるか
⑤	学校接続・R8トライアル	学校の負担軽減と必要な連携、R8トライアルで検証する事項・検証しない事項の整理
⑥	実施モデル	学校単位、近隣校合同・拠点型、認定地域クラブ型、文化系等の整理
⑦	年度目標	R13年度の休日地域展開100%、受益者負担本格運用開始、前倒し可能性の考え方

今後の進め方

時期	主な作業
8月	第8回検討委員会で骨子・論点を提示
9月	子どもの意見収集、R8トライアル準備
10月	制度論点の中間整理、必要に応じ追加共有
11月	推進計画改定素案、パブリックコメント前確認
1月	推進計画改定最終案確認
2～3月	推進計画改定完了、R9以降のガイドライン策定準備

第8回（今回）検討委員会では、推進計画改定の主要論点を提示し、R9年度以降の地域展開開始に向けた検討の方向性を確認する。

02 R8年度に進める取組と制度設計論点

第7回検討委員会で整理した重要論点「d人材バンク」・「f 収支モデル」を一体的に整理する

- 地域展開を進めるためには、指導者を確保するだけでなく、登録、認定、研修、配置、活動管理、謝金、費用負担を一体的に整理する必要がある。
- 第7回検討委員会では、**重要論点dとして、指導者の募集、登録、研修、認定、配置、活動管理の仕組みを整理する必要性**を示した。また、**重要論点fとして、地域クラブ運営に必要な費用、受益者負担の許容範囲、指導者謝金の水準等を検討する必要性**を示した。
- 今後は、人材バンクの構築、指導者認定、謝金設定、受益者負担、公費・補助金、減免制度等を相互に関連する論点として整理し、R9年度以降の地域展開に向けた制度設計につなげる。

論点		整理すべき事項
1	人材バンク	登録項目、募集方法、登録後のフォロー、配置調整
2	指導者認定	市・市教委の認定基準、研修、更新、取消
3	役割区分	メイン指導者、サブ指導者、見守り・運営サポーター
4	謝金水準	役割別単価、活動時間、通常活動、大会引率
5	交通費	支給有無、上限、活動場所との関係
6	受益者負担	参加費、減免、保護者負担水準
7	公費・補助金	国・都補助、市費、協賛等との組み合わせ
8	安全管理	不適切行為防止、ハラスメント防止、事故対応

人材確保と費用負担は、地域展開の実現可能性に直結するため、年度目標と一体で整理する。

R9年度以降の地域展開に向け、指導者・運営支援人材の確保を進める

- R9年度以降の地域展開を進めるためには、地域クラブ活動に関わる**指導者・運営支援人材を継続的に確保**し、登録、面談、研修、配置につなげる仕組みが必要となる。
- R8年度は、調布市スポーツ協会を中心に人材バンクの登録受付を開始し、市報、チラシ、加盟団体等への周知を通じて、地域人材の掘り起こしを進める。
- 今後は、登録された人材について、指導可能種目、活動可能日、資格・経験、希望する関わり方等を確認し、**R8トライアルやR9年度以降の地域クラブ活動への配置**につなげていく。

進行計画と現在地

令和8年 5月～8月

現在地

令和8年 9月～

ステップ①：広報・指導者募集の告知

ステップ②：指導者の認定制度

ステップ③：活動管理

チラシ・説明会等を活用した広報

ポータルサイト

登録フォーム

審査・面談

研修・認定

人材リストの管理

指導現場への配置と運営

実施済み

実施予定

中学校部活動を支える指導者・サポーターを募集

あなたの経験や特技を部活動指導に活かしませんか？

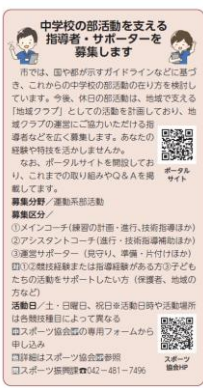
調布市では、国や都が示すガイドラインなどにに基づき、これからの中学校の部活動の在り方を検討しています。今後、休日の部活動は、地域で支える「地域クラブ」としての活動を計画しており、地域クラブの運営にご協力いただける指導者などを広く募集します。

本取組は、中学生が将来にわたってスポーツを続ける環境を確保するため、学校だけでなく、地域の団体・指導者・保護者・関係機関が連携して活動を支える仕組みづくりを進めるものです。

指導者・サポーター募集に関する詳細は、[公益社団法人 調布市スポーツ協会ホームページ\(外部リンク\)](#)をご覧ください。

また、部活動に関する情報を発信するため開設したポータルサイトでは、これまでの取組やQ&Aを掲載しています。サイトの詳細は、次の関連ページをご確認ください。

調布市HP



市報ちょうふ (8/5号)



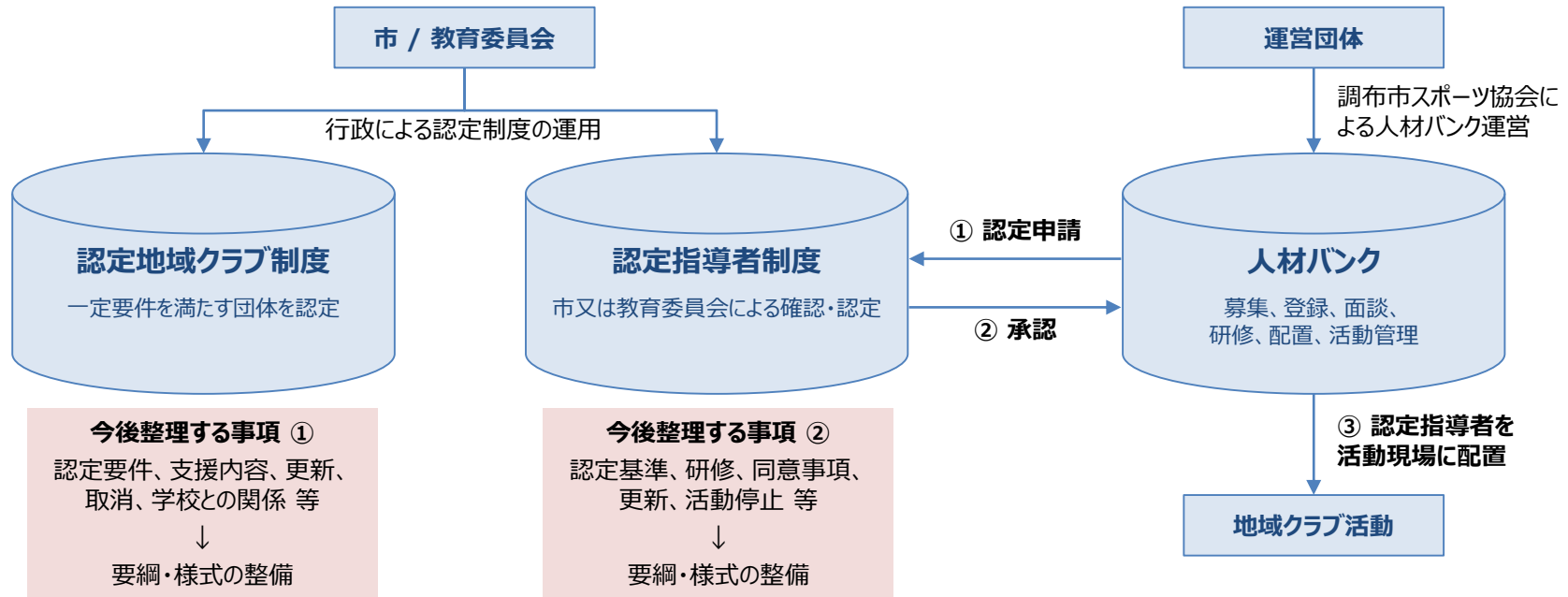
人材バンク広報チラシ



調布市スポーツ協会HP

指導者認定と団体認定を分けて整理する

- 地域クラブ活動を安全かつ安定的に実施するためには、**指導者を募集・登録する仕組み**と、活動に関わる**指導者や団体を一定の基準に基づき確認する仕組み**を分けて整理する必要がある。
- 人材バンクは、地域クラブ活動に関わる指導者・運営支援人材を募集し、**登録・面談・研修・配置につなげるための基盤**として整理する。
- 一方で、地域クラブ活動における指導者認定は、生徒が安全・安心に活動できる環境を整えるため、**市又は教育委員会が一定の基準に基づき確認する制度**として整理する。実務上の**登録、面談、研修、配置調整等は、スポーツ協会等の運営主体が担う**ことを想定する。
- また、**認定地域クラブは団体を対象とする制度**、**認定指導者は個人を対象とする制度**として、別に整理する必要がある。



人材バンクは人材確保の基盤、認定制度は安全・安心を担保する仕組みとして整理し、
個人の認定と団体の認定を分けて制度設計を進める。

役割・責任・既存制度との整合を踏まえて整理する

- 地域クラブ活動における謝金水準は、単に時給額を設定するものではなく、指導者の**役割、責任の範囲、活動時間、既存制度との整合、近隣自治体等の状況、指導者確保への影響、保護者負担・公費負担とのバランス**を踏まえて整理する必要がある。
- 通常の休日活動については、1回3時間程度を基本単位として整理する。一方で、**大会引率や長時間活動、交通費の扱いについては、通常活動とは別に整理が必要となる。**
- また、部活動指導員や外部指導員等が地域クラブ指導者へ移行する場合に、**役割や責任が増える一方で、実質的な処遇が大きく下がる見え方とならないよう、既存制度との整合を確認**する必要がある。

検討項目		整理する内容
a	役割区分	メイン指導者、サブ指導者、見守り・運営サポーター
b	通常活動	休日1回3時間程度を基本単位として整理
c	大会引率・長時間活動	通常活動とは別の謝金・責任範囲を検討
d	交通費	支給有無、上限、対象範囲を整理
e	既存制度との整合	部活動指導員、外部指導員等との比較
f	他自治体の水準	近隣自治体、先行自治体の謝金設定を参考に整理
g	人材確保への影響	指導者確保に資する水準かを検討
h	費用負担との関係	謝金水準が市費・受益者負担に与える影響を確認

謝金水準は、金額のみで判断するのではなく、役割・責任・既存制度・人材確保・費用負担を一体で整理する。

【参考】地域クラブ活動における指導者謝金の設定事例

- ・中学校部活動の地域展開を進める10自治体について、自治体規模、展開状況、運営主体とあわせて、指導者の役割ごとの謝金・報酬設定を整理した。
- ・単純な「時給」の高低ではなく、どのような役割を設定し、どの単位・金額で報酬を設定しているかを比較する。

都道府県	自治体	人口規模	中学校数	進捗	開始・範囲	クラブ数	運営主体	指導者の役割ごとの金額設定
茨城県	神栖市	約9.3万人	8校	展開済	R6.9 休日	33クラブ	教育委員会＋スポーツデータバンク（株） （かみす地域クラブ）	・直営型指導者：1,700円/時＋交通費1,000円 ・自主運営型は各団体設定
新潟県	長岡市	約25.0万人	27校	展開済	R7.9 休日	84クラブ	（公財）長岡市スポーツ協会 （ながおかCome100クラブ）	・指導スタッフ：5,000円/回（半日・3h程度）、8,000円/回（1日・4.5h以上） ・活動サポーター：3,000円/回、5,000円/回（同区分）
新潟県	魚沼市	約3.1万人	5校	展開済	R8 平日＋休日	—	教育委員会 （魚沼市認定地域クラブ）	・指導者A：平日3,200円/回・休日4,800円/回 ・指導者B：平日2,000円/回・休日3,000円/回
千葉県	四街道市	約9.7万人	5校	予定	R8.9 休日	54クラブ	（株）オークスベストフィットネス （認定地域クラブ運営統括団体）	・地域クラブ指導員：1,600円～/時＋交通費（練習500円/日、大会1,000円/日）
兵庫県	神戸市	約150万人	80校	予定	R8.9 平日＋休日	1,080クラブ	教育委員会＋KOBE KATSU登録団体 （コベカツ）	・登録団体が設定（市一律単価なし）
山口県	山口市	約18.7万人	17校	予定	R8.9 平日＋休日	91クラブ	教育委員会 地域クラブ活動推進室 （山口市地域クラブ）	・指導者：約1,500円/時 交通費別途 ・指導補助者Ⅰ：約1,250円/時 交通費別途 ・指導補助者Ⅱ：約1,000円/時 交通費別途
千葉県	印西市	約11.3万人	9校	予定	R8.9 休日	70クラブ	教育委員会＋（株）アーシャルデザイン （印西NEXUS）	・地域クラブ指導員等：6,300円/1コマ180分＋交通費500円〔R8受託事業者公開求人〕
京都府	京都市	約143万人	62校	予定	R10.9 平日＋休日	—	教育委員会＋競技別受託者〔R8実証〕 （R10～未選定）	・統括責任者：2,233円/時〔R8実証〕 ・主任・副主任指導者：2,055円/時〔R8実証〕
東京都	日野市	約19.0万人	8校	段階 展開中	—	15クラブ	教育委員会＋スポーツデータバンク（株） （ひのスポ！ひのカル！）	・指導者：3,000円/時（交通費込み）
東京都	昭島市	約11.7万人	6校	実証中	—	3クラブ	教育委員会＋スポーツデータバンク（株） （あきしまRe:Club）	・指導者：2,500円/時＋交通費1,000円

※2026年8月時点の自治体等の公開情報および確認可能な運営情報をもとに整理しています。各自治体の制度・運用・報酬条件等は今後変更される可能性があるため、本資料は現時点で確認できる情報の参考整理であり、内容の完全性・正確性を保証するものではありません。

指導者謝金・参加者数・公費・受益者負担を一体で整理する

- 地域クラブ活動を持続可能な仕組みとして運営するためには、指導者謝金だけでなく、交通費、保険、研修、ICT、事務局費、施設・備品、大会引率等を含めた費用構造を整理する必要がある。
- また、費用負担の検討に当たっては、クラブ数、参加者数、活動回数、指導者配置、謝金単価、参加率等を仮置きし、**市費、国・東京都補助、受益者負担、協賛・寄附等を組み合わせた収支モデル**を確認する必要がある。
- あわせて、既存の部活動指導員や外部指導員に係る予算についても、今後、**部活動支援の予算から地域クラブ活動の予算へ段階的に移行していく流れ**を整理する必要がある。
- また、ここで整理する受益者負担は、直営の地域クラブ活動に参加するための基礎的な費用を想定するものであり、**消耗品、遠征、大会参加等に充てる部費的な徴収については、別途整理が必要**である。

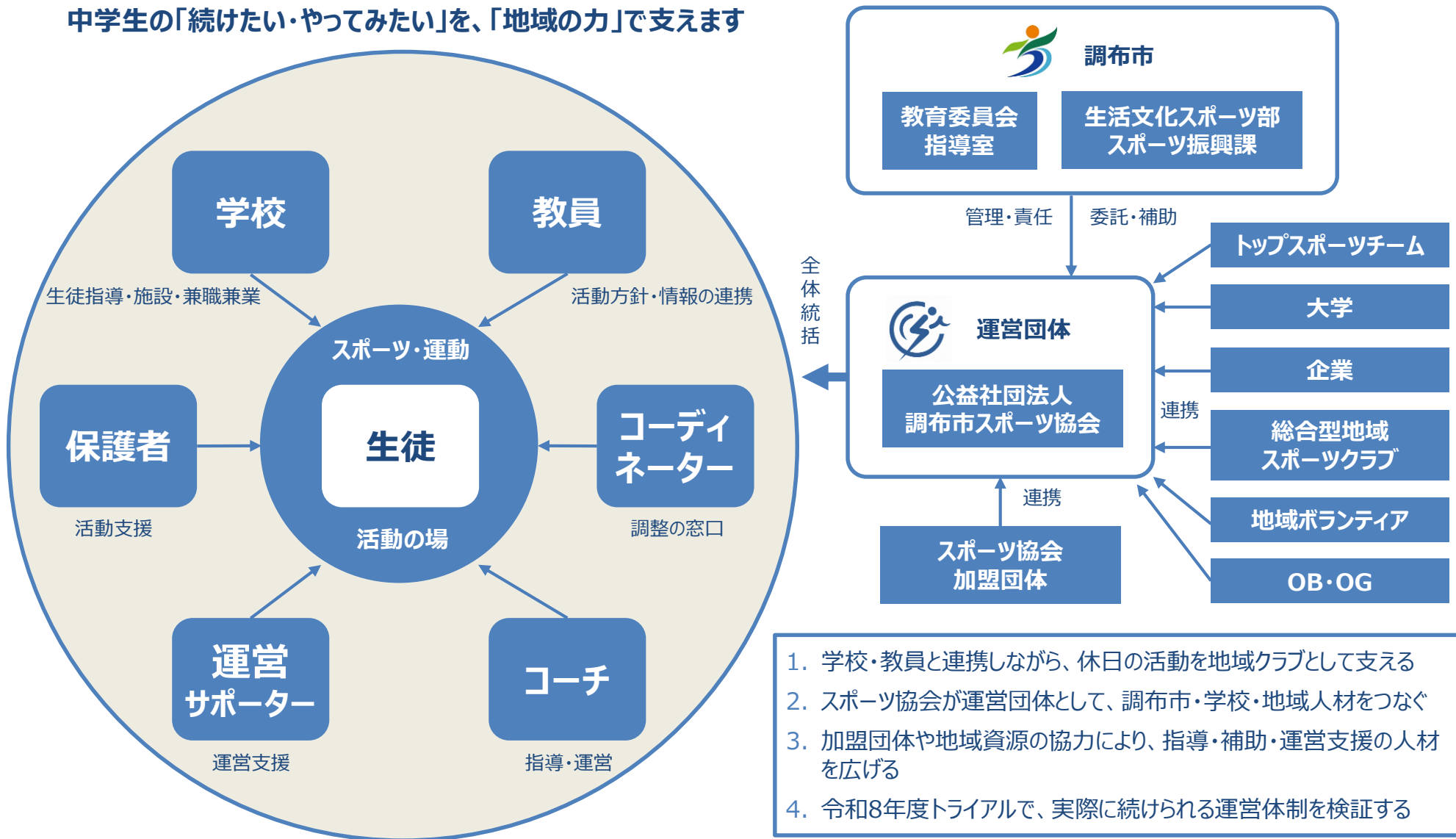
主な財源	主な支出
1. 市費 2. 国・東京都補助 3. 受益者負担 4. 寄附 等	1. 指導者謝金 2. 交通費 3. 保険 4. 研修 5. ICT 6. 施設 7. 備品・消耗品 8. 大会参加 9. 事務局費 等

区分		主な内容
a	試算条件	クラブ数、参加者数、活動回数、指導者配置、謝金単価、参加率
b	受益者負担	月会費、入会金、減免制度、徴収方法、本格運用開始時期
c	既存予算との関係	部活動指導員・外部指導員等の予算から地域クラブ活動予算への移行
d	今後の検討	スポーツ協会による運営費試算、加入率別シミュレーション、財源構成の整理

地域クラブ活動の費用負担は、謝金単価だけでなく、参加者数、配置人数、活動回数、受益者負担、市費・補助金を組み合わせた収支構造として整理する。

調布モデルにもとづく地域クラブ立ち上げのイメージ（運動系部活動を対象に）

中学生の「続けたい・やってみたい」を、「地域の力」で支えます



R9以降の制度設計に必要な事項を検証する

- R8トライアル事業は、地域人材による活動を試行するだけでなく、R9年度以降の地域展開開始に向けて、**制度設計上必要となる事項を検証する取組**として位置付ける。
- 主な検証項目としては、人材確保、指導者配置、学校との接続、施設利用、費用負担、保護者説明、文化系部活動への対応等が想定される。これらの**検証結果は、後期推進計画、ガイドライン、認定制度、謝金・費用負担、R9年度以降の運営体制に反映**する。
- **トライアル事業は全8校で実施。スポーツ協会の人材募集状況等を勘案して実施部活を決定する。**
- 合同・拠点型については、将来的な実施モデルとして推進計画に位置付ける一方で、R8トライアルにおいて無理に実証することは現場負担が大きい可能性がある。そのため、必要な状況が生じた場合に自然発生的に整理することを基本とし、今年度は考え方の整理を中心とする。

検証項目	A 人材確保	B 指導者配置	C 学校接続	D 施設利用	E 費用負担	F 保護者説明	G 文化系部活動
R9以降への反映	1. 人材バンク 2. 認定指導者制度 3. 研修	1. メイン、サブ、見守り・運営サポーターの配置基準	1. 顧問との情報共有 2. 平日・休日の接続 3. 活動報告	1. 学校施設 2. 鍵管理 3. 備品 4. 安全管理 5. 緊急時対応	1. 謝金 2. 交通費 3. 保険 4. 事務局費 5. 受益者負担等の試算	1. 参加方法 2. 費用負担 3. 安全管理 4. 連絡手段 5. FAQ	1. 顧問業務の洗い出し 2. 調布市文化・コミュニティ振興財団・大学等との連携

R8トライアルは、R9年度以降の地域展開に向けて、制度設計を具体化するための検証として実施する。

R8トライアルで検証する範囲

R9年度以降の地域展開に接続する「休日の通常練習」の範囲を中心に実証を開始

今年度の実証範囲		
対象	平日	休日（土日）
通常の練習	学校部活動	① 地域クラブ活動として実証 活動状況により 部活動も併用
他校との練習試合や 合同活動 （遠征など）		
公式試合・コンクール （中体連大会など）		

② 運営アプリを試験運用

国が示す将来像（R13までに実現を目指す）		
対象	平日	休日（土日）
通常の練習	学校部活動	地域クラブ活動 練習試合や 公式大会等にも参加
他校との練習試合や 合同活動 （遠征など）		
公式試合・コンクール （中体連大会など）		

運営アプリで情報共有

① 休日の「活動の一部」の運営方法を変更

休日の活動の一部を、学校部活動ではなく、地域クラブ活動の枠組みで運営する。活動そのものを大きく変えるのではなく、

運営主体／指導者・教師の立場／安全管理／保険／活動記録／連絡体制

など、活動を支える「裏側の仕組み」を変え、成果と課題を確認する。

また、休日の練習試合や公式大会等について、地域クラブとしての参加を前提とした課題の把握も、実証の状況を踏まえて検討する。

② 活動の予定・連絡をICT化

運営アプリ「BAND」を試験運用。

- ・ 通常練習
- ・ 練習試合や大会・コンクール
- ・ 集合時間・場所
- ・ 活動変更・中止
- ・ 欠席・遅刻等

など、部活動全体の予定や連絡を分かりやすく共有する方法を試す。保護者の利便性向上 + 顧問・指導者の連絡負担軽減につながるかを確認。



運営アプリ
Band（無料）

03 R8～R10を中心とした事業推進の全体像

R8～R10を中心とした事業推進の全体像

R8は制度設計、R9は開始、R10は初期拡充の年度として位置付ける

- R8～R10は、令和9年度（年度後半から実施予定）以降の地域展開開始及び段階的な拡充に向け、制度設計、実証、初期実装を進める期間として位置付ける。
- R8年度は、推進計画の改定、R8トライアル、人材バンクの構築、指導者認定、謝金・費用負担、学校接続ルール等について、**制度原案を整理**する。
- R9年度は、各校1部活動以上を目安に**地域展開を開始し、ガイドライン、認定制度、運営マニュアル等を運用**する。
- R10年度は、初期拡充を進めながら、**運営体制、費用負担、施設利用、安全管理等の改善**を図る。
- その後、R11年度以降は、R9・R10の実施状況を踏まえ、地域クラブを段階的に拡充し、**R13年度までの休日の地域展開100%(※1)を目指す案を検討**する。
- 一方で、令和9年度及び令和10年度の実施状況、人材バンクの登録状況、学校現場の受け止め、スポーツ協会等の運営体制、費用負担の整理状況等を踏まえ、**条件が整った場合には、地域クラブの拡充を前倒しすることも検討**する。

期間	R8	R9～R10	R11～R12	R13	R14以降
位置付け	設計・検証	初期実装	拡充・定着	達成・本格運用開始	運用改善
主な内容	- 推進計画改定 - R8トライアル - 費用試算 - 制度原案整理	- 各校1部活動以上 25%程度への拡充 - ガイドライン・認定制度の運用	50%、75%を目安に段階展開 - 費用負担・減免・運営体制の具体化	- 休日地域展開100%を目指す 100%が見込まれる年度から受益者負担を開始（※2）	- 運用定着・改善 - 平日展開の検討

※1 学校が設置する部活動数の総数を100%とする。

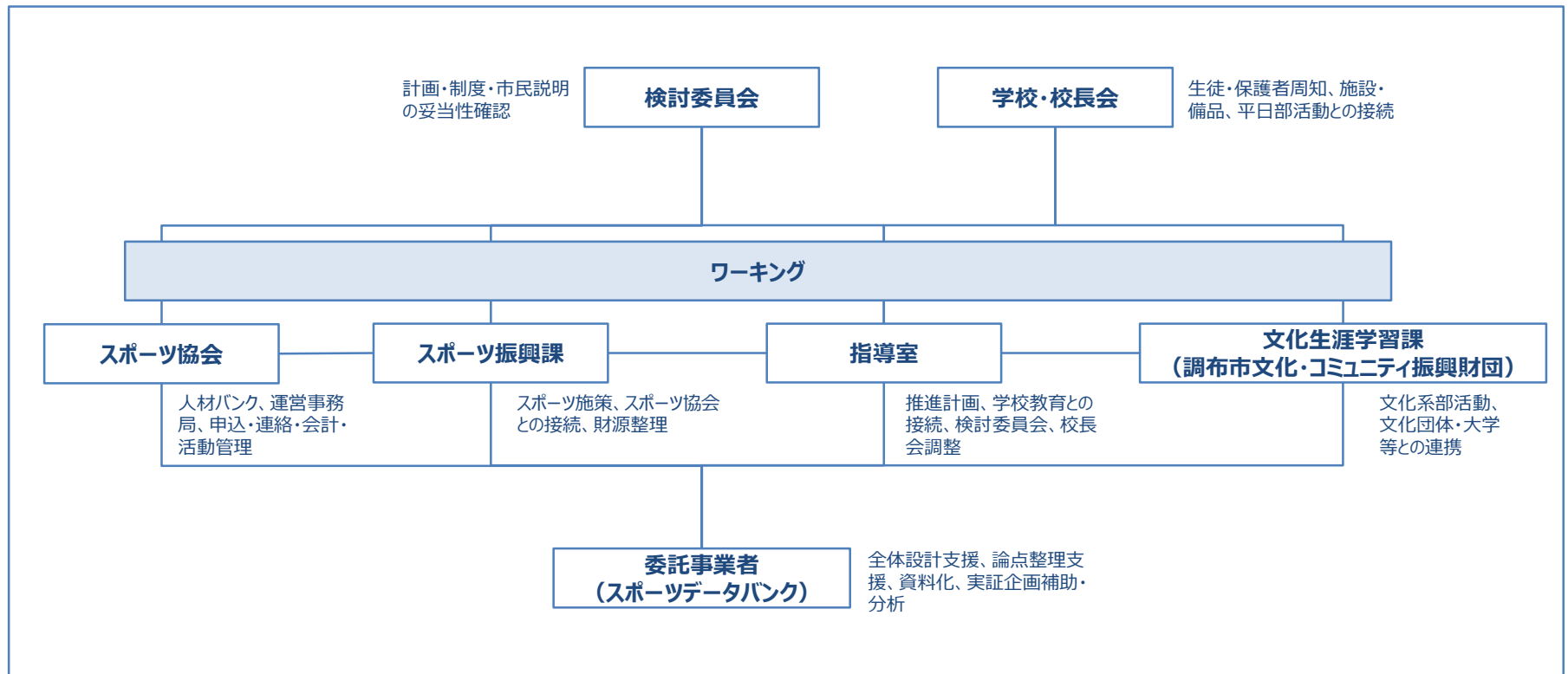
※2 受益者負担は、指導者謝礼・保険料など必要最低限の財源。遠征費など必要なものは地域クラブごとに別途徴収することを想定

事業推進に当たっては、**政策・計画、制度設計、実装・運営の3つの取組を相互に接続**しながら、R9年度以降の地域展開に向けた基盤を整備する。

取組		主な内容	成果物・検討事項
A	政策・計画	市としての方向性、目標、ロードマップ	後期推進計画（基本方針、ほか）
B	制度設計	地域クラブ活動を成立させる制度	ガイドライン（認定制度、指導者制度、費用負担、ほか）
C	実装・運営	実際の運営方法、関係主体の動き	トライアル、人材バンク、施設利用、申込・連絡・会計

関係部署・主体の役割と責任を明確化する

- 第7回検討委員会では、運動系部活動において、調布市スポーツ協会を統括団体・運営事務局として想定するスキームを示した。また、文化系部活動については、統括団体を未定としつつ、文化生涯学習課、文化財団、大学、文化団体等との連携を想定するスキームを示した。
- 今後、R9年度以降の地域展開を進めるためには、行政、教育委員会、スポーツ協会、文化生涯学習課、文化財団、学校等の役割を改めて整理し、必要に応じて協定等により責任分担を明確化する必要がある。
- 特に、制度上の責任主体、運営団体としての役割、実施主体としての役割、学校に残る役割を分けて整理することが重要である。



地域展開の実装に向け、制度上の責任主体、運営団体、実施主体、学校の役割を整理する。

04 推進計画改定に向けた主要論点

推進計画には大枠を示し、運用詳細はガイドライン等で定義する

- 後期推進計画では、調布市が目指す地域展開の理念、推進目標、基本方針、実施モデル、ロードマップ等を示す。
- 一方で、地域クラブ活動の具体的な運用基準、指導者認定、活動基準、事故・緊急時対応、謝金・交通費、活動報告、施設利用等については、推進計画とは別に、ガイドライン等で整理する必要がある。
- この切り分けにより、推進計画では市民に対して中長期の方向性を示し、ガイドラインではR9年度以降の地域クラブ活動を安定的に運用するための実務基準を定める。

区分	推進計画に記載する事項	ガイドライン等で定義する事項
目的・理念	地域展開の目的、将来像	—
目標	年度目標、達成時期、ロードマップ	年度別実施計画
実施モデル	直営型、認定型、拠点型等の大枠	各モデルの運用条件
指導者	確保・育成・認定の基本方針	登録基準、研修、更新、取消
費用負担	受益者負担・減免・財源の考え方	参加費、謝金、交通費、支払方法
学校接続	学校と地域クラブの役割分担の考え方	連絡、報告、施設利用、事故対応
安全管理	安全・安心の基本方針	保険、緊急対応、ハラスメント対応

推進計画は中長期の方針を示す資料、ガイドラインは地域クラブ活動の実務運用を支える基準として整理する。

R13年度までの達成を基本に、実施状況に応じた前倒しも検討する

- 休日部活動の地域展開については、国・東京都が示す改革実行期間を踏まえ、**令和9年度から段階的に開始し、令和13年度までに原則として100%の地域展開を目指す**ことを基本案とする。
- この考え方は、地域展開を先送りするものではなく、人材確保、学校現場との接続、運営体制、謝金・費用負担、保護者説明等を段階的に整備しながら、**持続可能な形で地域展開を進めるための**ものである。
- 一方で、令和9年度及び令和10年度の実施状況、人材バンクの登録状況、学校現場の受け止め、スポーツ協会等の運営体制、費用負担の整理状況等を踏まえ、**条件が整った場合には、対象部活動の拡充を前倒し**することも検討する。

区分		考え方
①	基本となる達成時期	令和13年度までに、原則として休日部活動の地域展開100%を目指す
②	開始時期	令和9年度から、各校1部活動以上を目安に地域展開を開始する
③	段階展開の考え方	R9・R10の実施状況を確認しながら、対象部活動を段階的に拡充する
④	前倒しの考え方	人材確保、学校接続、運営体制、費用負担等の条件が整った場合は、可能な範囲で前倒しを検討する
⑤	受益者負担との関係	R13の受益者負担本格運用開始に向けて、受益者負担、減免、財源の考え方を段階的に整理する
⑥	検討委員会で確認したいこと	達成時期、段階展開、前倒し可能性、費用負担・人材確保との関係について意見を得る

年度	位置付け
R8	制度設計・トライアル
R9	各校1部活動以上で開始
R10	実施状況を確認し、拡充
R11～R12	段階的に対象拡充
R13	休日地域展開100%を目指し、受益者負担の本格運用開始
R14以降	運用定着・改善、平日展開の検討

R13年度までの達成を基本としつつ、R9・R10年度の実施状況を踏まえ、条件が整った場合には前倒しも検討することで、現実性と推進力の両立を図る。

学校単位の置き換えを基本に、部活動ごとの実情に応じて複数モデルを組み合わせる

- 調布市における地域展開は、すべての部活動を一律の方法で地域クラブ化するのではなく、学校、部活動、種目、指導者、活動場所、既存の地域資源等の状況に応じて、複数の実施モデルを組み合わせて進める必要がある。
- 現時点では、既存の休日部活動を学校単位で地域クラブ活動に置き換えるモデルを基本としつつ、部員数や施設条件、既存地域クラブの有無、文化系部活動の特性、生徒の多様なニーズ等を踏まえ、近隣校合同・拠点型、認定地域クラブ型、文化系個別支援型、新規活動・地域資源活用型等を組み合わせる方向で検討する。

調布市の特性・現状	実施モデルを検討するうえでの視点
市立中学校8校で、市域が比較的コンパクト	- 学校単位を基本に検討 - 近隣校合同 - 拠点型も選択肢 - 移動負担、施設利用を考慮
学校・部活動ごとに、人数、指導者、施設、大会条件等が異なる	- 一律移行ではなく個別整理 - 部活動置き換え型を基本に検討 - 難しい部活動は別モデルを検討
スポーツ協会・加盟団体を中心に、人材バンクの構築を進めている	- 市・市教委が方針・基準を整理 - スポーツ協会が運営を担う形を基本 - 指導者認定、研修、配置と接続
既存の地域クラブ、学校公認クラブ、外部指導員等の地域資源がある	- 認定地域クラブ型を検討 - 既存人材・既存団体を活用 - 認定要件、支援、管理方法を整理
文化系部活動やトップスポーツ連携など、運動系とは異なる活動もある	- 文化系個別支援型を検討 - 新規活動・地域資源活用型を検討 - 通年運営と体験・クリニックを区別

モデル	位置付け	想定される対象	主な運営イメージ
① 学校単位・部活動置き換え型	既存の休日部活動を、学校単位で地域クラブ活動に置き換える基本モデル	人数・活動場所・指導者が一定程度見込める部活動	市・市教委の方針に基づき、スポーツ協会等が運営を担い、学校施設を活用して実施
② 近隣校合同・拠点型	学校単位での維持が難しい部活動を、複数校合同又は拠点校で実施するモデル	部員数が少ない種目、合同活動の実績がある種目、施設制約がある活動	複数校の生徒が同一会場で活動し、地域指導者・部活動指導員等が指導
③ 認定地域クラブ型	市・市教委が一定要件を満たす地域クラブを認定し、生徒の活動機会として位置付けるモデル	既存地域クラブ、学校公認クラブ、競技団体・文化団体等	市・市教委が認定基準を設け、活動情報提供、施設利用、研修、安全管理等を整理
④ 文化系個別支援型	文化系部活動の特性に応じ、既存の指導関係や活動環境を踏まえて個別に設計するモデル	吹奏楽、合唱、美術、演劇等	文化生涯学習課、調布市文化・コミュニティ振興財団、大学、既存指導者等との連携により、顧問業務の洗い出しと代替可能性を検証
⑤ 新規活動・地域資源活用型	学校部活動にはない活動や、生徒の新たなニーズに対応するモデル	マルチスポーツ、トップスポーツ連携、大学・企業連携、体験型活動	地域資源を活用し、クリニック、体験会、短期講座、地域クラブ化の可能性を検証

R9～R13の段階的な地域展開案

令和13年度までに休日地域展開100%を目指し、受益者負担の本格運用を開始する

- ・休日部活動の地域展開については、令和9年度から段階的に開始し、令和13年度までに原則として100%の地域展開を目指す。
- ・令和9年度は、各校1部活動以上を目安に地域展開を開始し、令和10年度以降、学校・部活動ごとの実情、人材確保の状況、学校現場との接続、運営体制、費用負担等を確認しながら、地域クラブを段階的に拡充する。
- ・一方で、令和9年度及び令和10年度の実施状況、人材バンクの登録状況、学校現場の受け止め、スポーツ協会等の運営体制、費用負担の整理状況等を踏まえ、**条件が整った場合には、地域クラブ対象部活動の拡充を前倒しすることも検討する。**
- ・また、**令和13年度又は休日部活動の地域展開100%が見込まれる年度から受益者負担を開始**することを見据え、**当該年度までに**、参加費、減免制度、財源、徴収方法、保護者説明、運営体制等の整理を進める。

推進計画期間	～前期	後期					
年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14以降
位置付け	制度設計・実証	地域展開開始	初期拡充	中間拡充	最終拡充準備	達成目標	運用定着・改善
休日部活動の地域展開の目標・取組	R8トライアルを実施し、人材、施設、費用、安全管理、学校接続等を実証する	各校1部活動以上を目安に地域展開を開始する	25%程度を目安に地域クラブを拡充する	50%程度を目安に地域クラブを拡充する	75%程度を目安に地域クラブを拡充する	原則として地域展開100%を目指す	地域クラブ活動として安定的な運営を行う
受益者負担・制度整理	費用構造、謝金水準、保護者負担、減免制度の論点を整理	参加費・減免・徴収方法の考え方を整理。一部クラブで試行的な費用負担を検討	実施状況を踏まえ、費用試算と保護者説明を具体化	受益者負担の制度案、減免、財源、市費負担の考え方を整理	R13本格運用に向け、参加費、減免、徴収方法、説明内容を固める	R13本格運用に向けた制度整理、周知、予算、運営体制を完了する	受益者負担の本格運用を開始する

令和13年度までに休日地域展開100%を目指すとともに、受益者負担の本格運用に向け、費用負担・減免・財源・運営体制を段階的に整理する。